

堺泉北港助松地区 国際物流ターミナル整備事業

西日本第1位 我が国の中古自動車輸出を支える「堺泉北港」

現在 now

将来 future

インフラ



船名	SEPANG EXPRESS
船長	180m
船幅	30m
載荷重量トン	15,154DWT
デッキ面積	約35,000m2 (普通乗用車 約3,900台相当)

堺泉北港に寄港している自動車運搬船「SEPANG EXPRESS」

2006年より助松第9号岸壁
(計画水深14m)が
水深12mで暫定供用を開始

今後、水深14mになることで
輸送コスト:12.3億円/年*の
削減が見込まれる

※水深12m-14m時における
船舶大型化に伴う輸送コスト削減分

助松第9号岸壁暫定供用以前、
中古自動車輸出台数は
10万台程度の横ばいで推移

中古自動車輸出台数は、
2014年より西日本1位を維持し
今後も更なる増加が見込まれる

陸送のみならず
内航フェリー・内航ROROを利用し、
西日本各地より中古自動車を集荷

中古自動車オークション会場、
モータープール、検査検査施設など
中古自動車取扱施設が多数進出

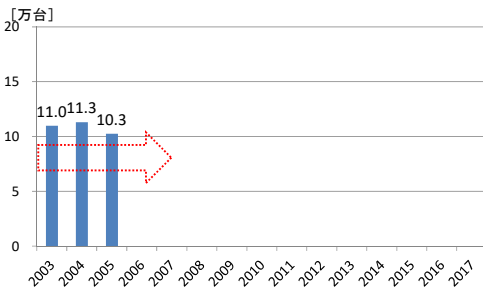


船名	40,000DWT級の自動車運搬船
船長	265m
船幅	32m
載荷重量トン	41,554DWT
デッキ面積	約81,500m2 (普通乗用車 約9,700台相当)

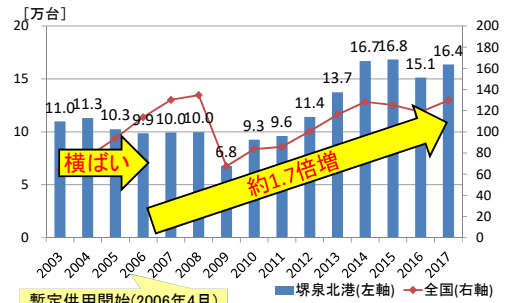
堺泉北港への就航が予想される自動車運搬船の参考事例

平成31年度供用予定

物流



堺泉北港 中古自動車輸出台数の推移



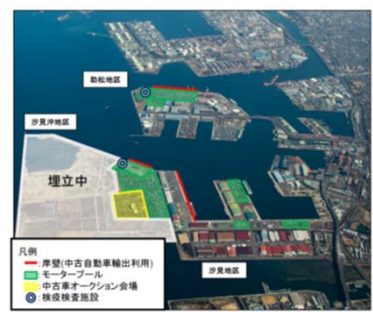
堺泉北港 中古自動車輸出台数の推移

輸出台数の増加

地域



事業着手前の堺泉北港(1994年撮影)



現在の堺泉北港(2015年撮影)

取扱施設の増加

助松第9号岸壁の暫定供用開始後、中古自動車の輸出台数が約1.7倍(対2006年比)に増加

中古自動車の輸出拠点機能を確保することで、堺泉北港を利用する周辺荷主等の輸送コストが軽減

堺泉北港は2014年より西日本第1位(全国第3位)を維持し、中古自動車の輸出拠点に成長

